

間後に再訪したが、キノコはすでに溶け去っており、残渣などから追加個体は得られなかった。6月の採集記録はあるが、本報告のように秋季の比較的昆虫が少なくなる時期に発生することや、来集するキノコの発生が短期間なことが得られにくい一因としてあげられる。滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課(2018)ではオオキノコムシ亜科の種数は47種であり、本報告により1種増え、48種となる。

末筆ながら、キノコに関し同定いただいた横山明子氏(みなくちこどもの森)、仲介の労をとられた川瀬直幹学芸員(みなくちこどもの森)に記してお礼申し上げる。

引用文献

- Chûjô, M., 1941. Descriptions of some new Erotylidae (Coleoptera) from the Japanese Empire. Kontyû, 15 (1) : 10–21, Figs. 1–11.
- 中條道夫, 1969. 日本動物誌 昆虫綱 Erotylidae (オオキノコムシ科). pp. 316, pls. 23. 学術書出版会, 東京.
- Chûjô, M., M. T. Chûjô, & C. E. Lee, 1993. Erotylidae from Korea (Insecta, Coleoptera). Esakia, (33) : 99–108.
- 本郷次雄・上田俊穂・伊沢正名, 1985. きのご図鑑. 223 pp. 保育社, 大阪.
- 木元達之助, 1996. 茨城県未記録の甲虫8科21種. 甲虫ニュース, (113) : 7–8.
- 清山好美, 1999. オオキノコムシ科の甲虫. 昆虫と自然, 34 (5) : 21–25.
- 松田一郎・成田伝蔵, 1986. きのごの見分け方. 254 pp. 学習研究社, 東京.
- 水野弘造・細田倅市, 2010. 韮崎市(山梨県)の甲虫. 地域甲虫自然史, (6) : 1–205.
- 中峯浩司, 2009. 霧島山高千穂峰で採集したコウチュウ類. 鹿児島県立博物館研究報告, (28) : 75–84.
- 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 2018. 滋賀県昆虫目録. URL http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/shigakon-cyyuu/h30_shigakonncyyuu.html (2020年1月19日閲覧)
- 森林総合研究所, 2008. 関東・中部地域で林地生産を目指す特用林産物(キノコ・山菜等41種)と被害事例. 農林水産省高度化事業 18021「関東・中部の中山間地域を活性化させる特用林産物の生産技術の開発」34 pp.

(山本雅則 521–1322 近江八幡市安土町宮津 1-57)

【短報】口永良部島からのヒゲブトシギゾウムシの記録

ヒゲブトシギゾウムシ *Curculio breviscapus* (Heller, 1927) は、日本産シギゾウムシ属内では特異な種で、森本(2011)でもヒゲブトシギゾウムシ群として独立の種群として扱われている。本種は、本州、伊豆諸島(御蔵島)、隠岐諸島(島後)、四国、九州、種子島、屋久島、台湾、中国に分布し、成虫は5～9月にクワ科のオオイタビ *Ficus pumila* から採集されている(藤本, 2011; 森本, 2011; 小島, 2015)。

筆者は、本種を4月に口永良部島で採集しているので、同島初記録として報告する。

10 ♂, 本村～田代, 19. IV. 2019; 10 ♂ 2 ♀, 本村～岩尾泊, 20. IV. 2019, すべて筆者採集。

本村～田代で得られた個体は、道沿の電信柱に絡みついたオオイタビから採集した。

本調査は一部、日本学術振興会科学研究費補助金(19K06790)の助成を受けて行われた。

引用文献

- 藤本博文, 2011. 採集難易度付き日本産シギゾウムシ族一覧表. 昆虫と自然, 46 (5) : 28–33.
- 小島弘昭, 2015. 伊豆諸島御蔵島産ゾウムシ上科甲虫目録. みくらしの科学, 4: 17–44.
- 森本 桂, 2011. 日本産シギゾウムシ類の概説. 昆虫と自然, 46 (5) : 4–15.

(小島弘昭 243–0034 厚木市船子 1737

東京農業大学農学部昆虫学研究室)

【短報】薩摩黒島からの水生甲虫5種の記録

薩摩黒島(以下、黒島と略)における昆虫相調査は、主として鹿児島県立博物館や鹿児島昆虫同好会により行われてきた(江平, 1985; 畑田, 1987, 1990; 金井ら, 2012)。しかし、それらの調査は陸域の昆虫を中心に行われており、水生昆虫の記録は少ない。コウチュウ目では、ゲンゴロウ科のチビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* (Sharp, 1873) とリュウキュウセスジゲンゴロウ *Copelatus andamanicus* Régimbart, 1899 の2種のみが報告されるにとどまっていた(金井ら, 2012)。

筆者らは、2016年と2018年に黒島の昆虫相調査を行い、三島村ならびに黒島から新記録となる水生甲虫類5種(ゲンゴロウ科4種、ガムシ科1種)を確認したのでここに報告する。

本調査は三島村役場の調査許可を得て実施した。なお、本報告で使用した標本は東京農業大学昆虫学研究室にて保管する。また、本文中で採集者名は次のように略記する: 長野宏紀(HN); 嶋本習介(SS)。学名は Nilsson (2019) および Przewoźny (2019) に従った。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

1. チャイロチビゲンゴロウ *Allodessus megacephalus* (Gschwendtner, 1931)

5 exs., 塩手鼻, 11. III. 2018, HN.

海に面した断崖の小規模な水たまりで得られた

(Fig. 1 矢印). 沿岸部の海水の混じるような水たまりを利用する種である(佐藤・吉富, 2018).

2. コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius, 1798)

1 ex., 大里, 13. IX. 2016, SS.

大里集落付近の建設プラント内にあるコンクリート製貯水槽で得られた(Fig. 2). フェリーとしまの船上で死骸が採集されるなど(細谷, 2016), 飛翔力が強い種と考えられ, 他の地域から飛来した個体の可能性もある.

3. ハイイロゲンゴロウ *Eretes griseus* (Fabricius, 1781)

1 ex., 大里, 13. IX. 2016, SS; 1 ex., 片泊小中学校, 14. IX. 2016, SS.

前種と同じ大里の貯水槽から得られたほか, 片泊小中学校のプールでも得られた. 不安定な水域を好む種であることが知られている(佐藤・吉富, 2018).

4. ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (W.S. Macleay, 1825)

5 exs., 大里, 13. IX. 2016, SS.

前2種と同時に大里の貯水槽で得られた. 日本産本科のなかでは最も分布の広い種の一つであるが(森・北山, 2002), 三島村からの記録はなかった.

ガムシ科 Hydrophilidae

5. ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792)

4 exs., 大里, 13. IX. 2016, SS.

上記4種のゲンゴロウと同じ大里の貯水槽で得られた. 採集した4個体のほかにも数頭を目視で確認している.

黒島は三島村内では面積が最大で, 森林も発達し, 水資源が豊富な島であるが, まとまった止水域は見られない. 今回採集した5種のうち4種(コガタノゲンゴロウ, ハイイロゲンゴロウ, ヒメゲンゴロウ, ヒメガムシ)が人工的かつ不安定な環境で確認された. これら4種が確認された大里のコンクリート製貯水槽では, 2016年の調査時に中型のゲンゴロウ類と思われる幼虫も確認できたものの, 2018年の調査時には水がほぼ抜かれていたため1種も確認できなかった. 黒島の止水域は非常に限定されているうえに不安定であると考えられ, これらの水生甲虫類が今後も継続して生息しうるかどうかは定かでない. また, 本調査では, 過去に記録されたチビゲンゴロウとリュウキュウセスジゲンゴロウの両種とも,



Figs. 1-2. Habitats of two diving beetles on Satsuma-Kuroshima Island. 1, Habitat of *Allodessus megacephalus*; 2, ditto, *Cybister tripunctatus lateralis*.

確認することができなかった.

末筆ながら, 調査を実施するにあたりお世話になった三島村役場の玉利希望氏をはじめ, 役場出張所や片泊小中学校の教員の方々, 多くの島民の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げる. また, 文献収集にご助力いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の荻部治紀氏, 渡辺恭平博士および, 調査に同行いただいた庄井健太氏の各氏にも, 厚く感謝申し上げます. 本調査研究は日本学術振興会科研費(No.15K06937)の助成を受けて行われた.

引用文献

- 江平憲治, 1985. 三島村黒島の昆虫類. *Satsuma*, (94): 112-115.
 細谷忠嗣, 2016. “フェリーとしま”の船上で採集されたゲンゴロウ科甲虫2種の記録. さやばねニューシリーズ, (25): 42-44.
 畑田健治, 1987. 黒島の昆虫相(第1報). 鹿児島県立博物館研究報告, (6): 9-12.
 畑田健治, 1990. 黒島の昆虫相(第2報). 鹿児島県立博物館研究報告, (9): 5-8.
 金井賢一・守山泰司・中峯浩司, 2012. 2010年10月黒島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告, (31): 73-78.
 森 正人・北山 昭, 2002. 図説日本のゲンゴロウ改訂版, 231 pp. 文一総合出版, 東京.
 Nilsson, A. N., 2019. A world catalogue of the family Dytiscidae, or the diving beetles (Coleoptera, Adepaga). Version 1.1. 2019. http://www.waterbeetles.eu/documents/W_CAT_Dytiscidae_2019.pdf.

Przewoźny, M. 2019. Catalogue of palaearctic Hydrophiloidea (Coleoptera). Internet version 2019-01-01. http://www.waterbeetles.eu/documents/PAL_CAT_Hydrophiloidea_2019.pdf.

佐藤正孝・吉富博之, 2018. コウチュウ目. Pp. 707-790. 川合禎次・谷田一三(編) 日本産水生昆虫第二版, 1520 pp. 東海大学出版部, 平塚.

- (嶋本習介 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(小島弘昭 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(長野宏紀 590-0117 堺市南区高倉台)

【短報】沖縄島北部におけるオキナワクビマルキコメツキの観察例

オキナワクビマルキコメツキ *Hemiops ireii* Ôhira & Makihara は 2002 年に沖縄県国頭村の天然林に設置されたマレーゼトラップで捕獲された 3 羽に基づいて 2007 年に新種記載されたコメツキムシである。クビマルキコメツキ属 *Hemiops* は中国南部から東南アジアにかけて広く分布する属であるが, Ôhira & Makihara (2007) と大平・楨原 (2008) は日本未記録属の種として分布上きわめて興味ある発見と記述している。また体長 11~12 mm と比較的大型の未知属の種がそれまで未発見であったのは, 発生期が 10 月~11 月と本科として異例に遅いことにも言及している。筆者の一人である松村は以前より本科に興味を持っていたこと, 台湾では同属の種を得ていたことなどから 10 数年前より秋期に国頭村にて採集を試みたが得ることはできなかった。大平・楨原 (2008) では原記載以降も追加があったとのことであるが近年の記録はない。

2019 年 12 月末に名護市在住の藤川浩明氏より, 服部の SNS にそれらしき種がアップロードされているとの情報が松村に入った。松村と服部は沖縄昆虫同好会に所属し面識もあったので連絡をとりあい, 本種に間違いないことを確認したので報告する。

以降, 服部の観察記録を報告する。1 頭目は 2019 年 11 月 24 日蛾の調査のため設置したライトトラップに飛来した (図 1)。2 頭目は同年 12 月 1 日夜間に岩の上に静止しているのが観察された (図 2)。いずれも観察のみなので正確には計測できていないが, 1 頭目はライトトラップ幕として使用した網戸の目と比較して体長約 12.3 mm と考えられる。また, 2 頭の観察例から推測すると, 夜間活動性が強く走光性があることが確認された。原記載の個体は 10 月 25 日~11 月 7 日の間に捕獲されたと記述されてい



図 1. ライトトラップに飛来したオキナワクビマルキコメツキ。



図 2. 夜間岩上に静止中の本種 (服部撮影)。

るが, 今回 12 月 1 日に観察されたことから成虫は 10 月末~12 月初旬まで活動するものと考えられる。

なお, 服部は本観察例を iNaturalist にアップロードしている。

末筆ながら, 本種についての情報提供をいただいた藤川浩明氏, また本報告を勧めていただいた有本久之氏と吉富博之博士に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 大平仁夫, 楨原 寛, 2008. 日本未記録の *Hemiops* 属の新種が沖縄本島から記録. 甲虫ニュース, (162): 29-30.
Ôhira, H. & H. Makihara, 2007. A new *Hemiops*, genus new to Japan, species of Elateridae (Coleoptera) from Okinawa Island of the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of FFPRI, 6 (4): 227-230.

- (松村雅史 901-1303 島尻郡与那原町与那原 3219-9)
(服部貴昭 905-1421 国頭郡国頭村辺戸 103)

【短報】西表島からのヒメイカリゾウムシの記録と擬死行動

ヒメイカリゾウムシ *Euthycus inaequalicollis* Morimoto,